J-STAGE
2022年度取組・2023年度予定

令和5年3月17日

JST 情報基盤事業部

科学技術振興機構

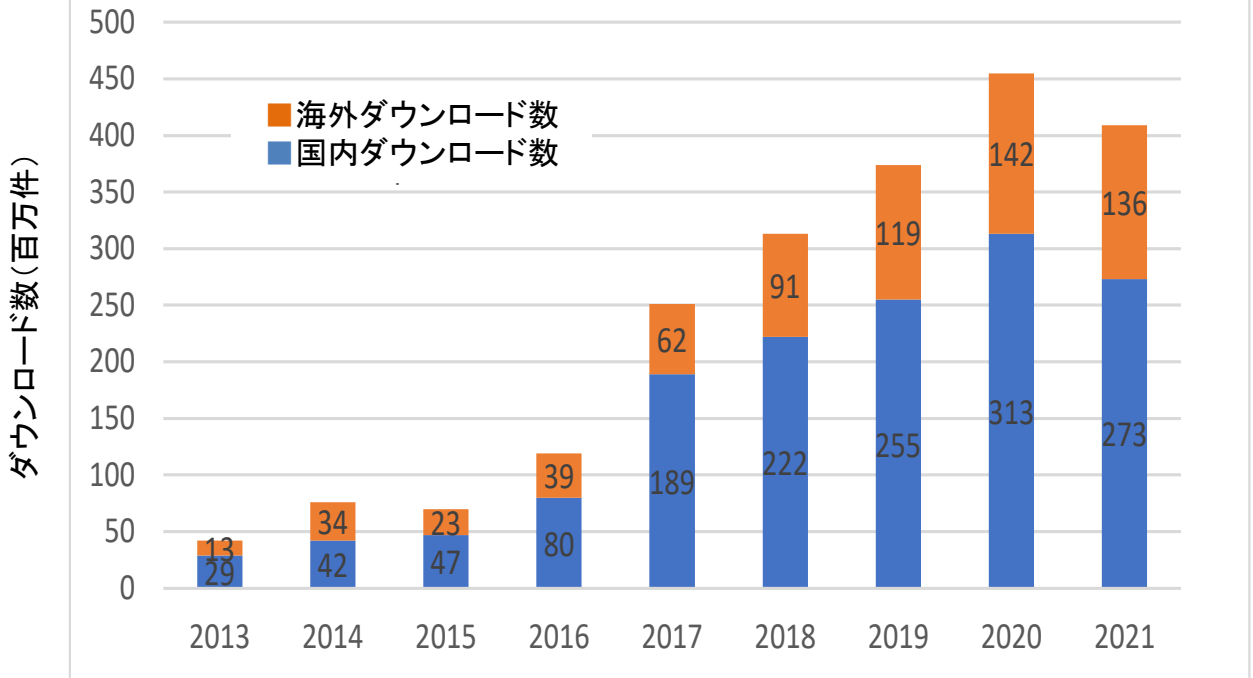
はじめに：J-STAGE概況

※2022年3月末時点

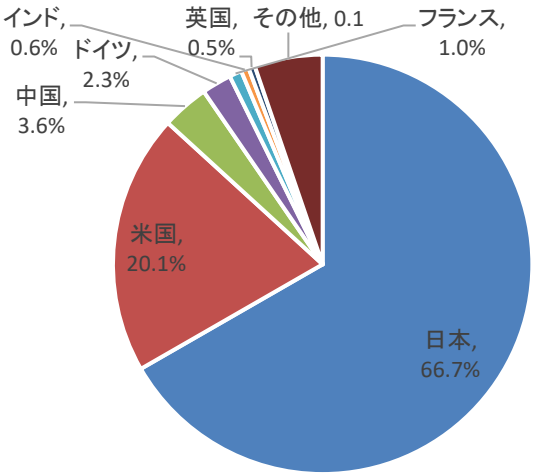
登載資料数・記事数の推移（年度末時点）

年度	2017	2018	2019	2020	2021	2022/12
利用機関数	1,348	1,499	1,687	1,855	2,052	2,178
登載資料数	2,584	2,804	3,056	3,262	3,434	3,692
記事数	4,520,537	4,822,409	5,013,892	5,202,407	5,327,049	5,485,897

ダウンロード数の推移



国・地域別ダウンロード数 (2021/4-2022/3)



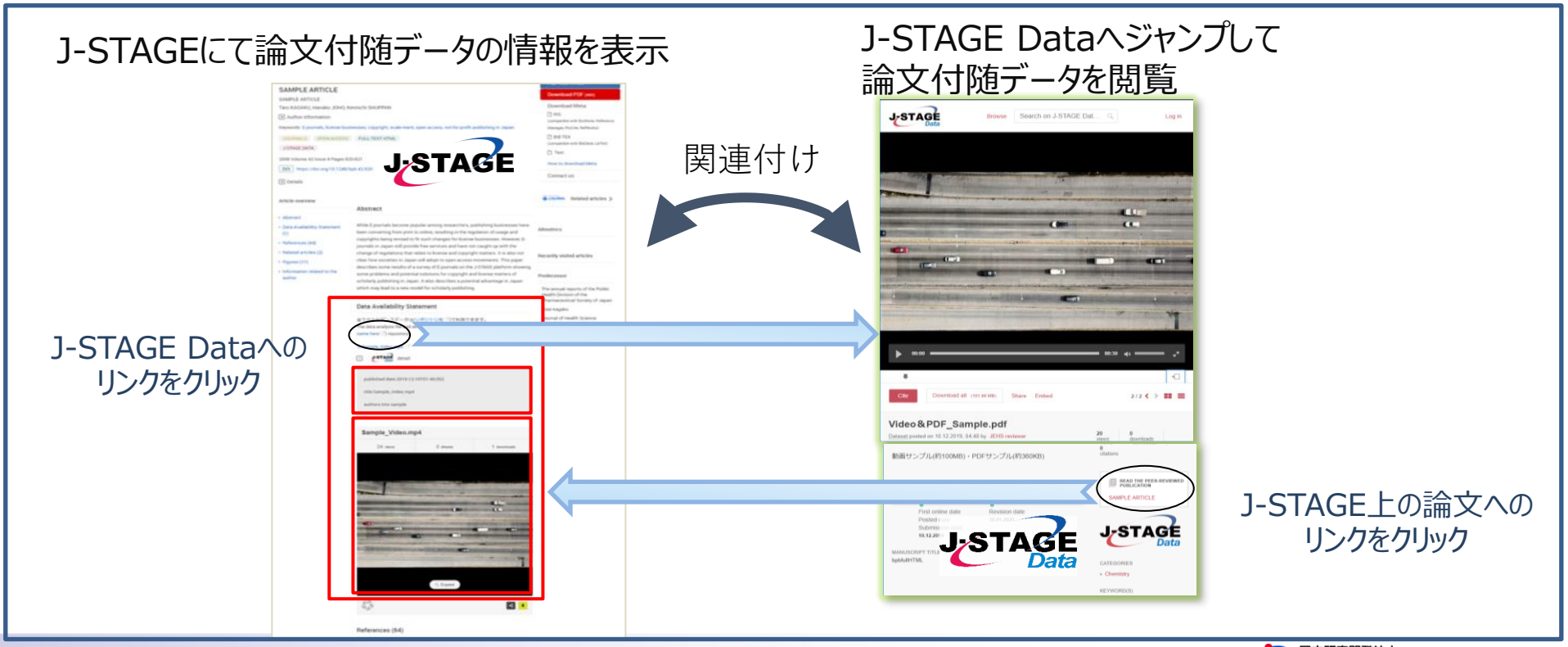
日本	272.7 百万件
米国	82.1 百万件
中国	14.8 百万件
ドイツ	9.4 百万件
フランス	3.9 百万件
インド	2.5 百万件
英国	2.0 百万件
その他	21.5 百万件

合計	408.9 百万件

J-STAGE Data概況

J-STAGE Dataとは

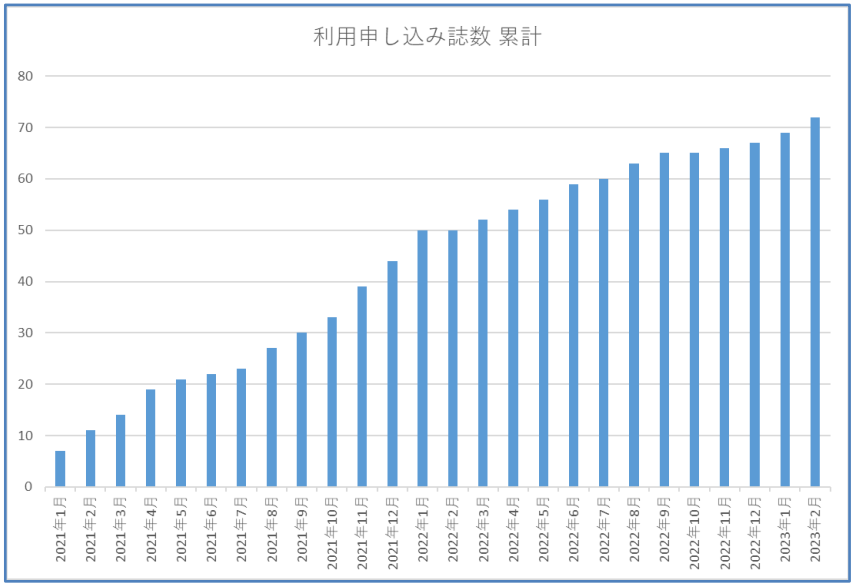
- J-STAGEの登載論文に関連するデータを登載・公開する**データリポジトリ**
- データに、論文とは独立して、メタデータ、DOI、CCライセンス を付与して公開
- すべてのデータは**オープンアクセス**で公開、ダウンロード・二次利用が可能

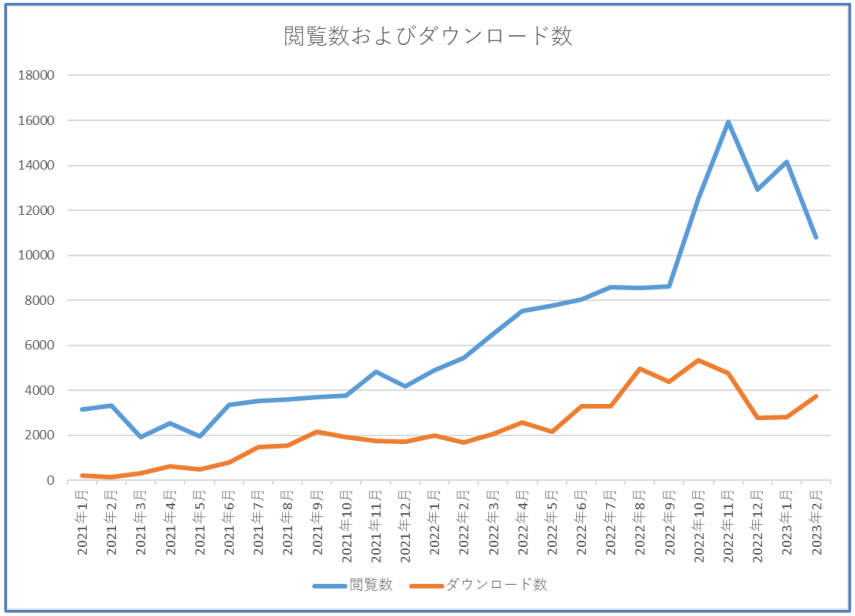


J-STAGE Data概況

- 利用申し込み誌：72誌
- データ登載誌：33誌
- 公開データ数：479件

（2023年2月末日 現在）





J-STAGE 2022年度の主な取組

(1) システム関係

① 巻号一覧へのGraphical Abstract表示追加
② J-STAGE登載データのチェック強化に係る改修
③ 記事のデータクレンジング
④ 記事解析ツール（内部システム）の開発
⑤ その他機能改善

※①は2022年12月に、②と④は2023年1月にリリース済み

(2) サービス関係

① ジャーナルコンサルティング
② J-STAGEセミナーの開催
③ J-STAGEニュースの発行
④ 投稿審査システム利用規約改定（2022/4/1施行）
⑤ 外部連携一覧の更新

2022年度J-STAGEシステム更新内容

- 巻号一覧へのGraphical Abstract表示追加（2022年12月リリース）
  Graphical Abstractを持つ記事について、巻号一覧画面にGraphical Abstractのサムネイルを表示する仕様へ変更しました。
  リリースノート：https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_release_20221224.pdf

- J-STAGE登載データのチェック強化に係る改修（2023年1月リリース）
  編集登載システムにおける、記事登載時のデータ入力チェックおよびデータ補正機能を追加しました。
  リリースノート：
  https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/pub_release_20230128.pdf

- その他不具合改修：詳細は下記「リリース項目一覧」をご覧ください
  https://www.jstage.jst.go.jp/static/files/ja/release.pdf

巻号一覧へのGraphical Abstract表示イメージ↓

2022年度J-STAGEの取組：データクレンジング

登載資料・記事のデータクレンジング

- 書誌情報に空データが登録されている記事の調査と空データの削除
- 資料・記事のオープンアクセスアイコンの整理
- 休刊誌・廃刊誌の調査およびアイコン付与
- 著者名のデータ修正

記事解析ツール（内部システム）の開発

- 公開済みの記事について、記事記述言語、PDF、全文テキスト、抄録言語が正しく登録されているかを判定する内部システムを開発（2023年1月リリース）
- 登録に誤りのあるデータについては、2023年度以降に修正を行う方針です。

【J-STAGE登載誌発行機関の皆様へ】
★資料の情報は最新の状態を保ち、連絡先、編集委員会、投稿規程などの変更が生じた場合は適時更新ください。
★記事データ登載時には、メタデータやPDF/全文テキストファイルが正しく登録されていることをご確認ください。

2022年度の主な取組（2）サービス関係

① ジャーナルコンサルティング

a) 英文誌…15誌参加

– コンサルティング会社による多様な支援を提供

- 投稿規程の改定（DOAJ収載要件に準拠したOAへの転換）～DOAJ申請代行
- 運営戦略と分析を伴ったOAへの転換
- 新規OAジャーナルの創刊
- データポリシーの評価
- OA誌のマーケティング計画（2022年度）
- 編集委員会の発展（国際化）
- ジャーナルインパクトファクター取得要件への準拠
- PMC収載要件への準拠
- 投稿数の増加
- 前年度フォローアップ（2022年度）

b) 和文誌…2誌参加

– JSTによる改善活動の支援

- DOAJ収載要件に準拠するための改善活動の支援
- DOAJ申請代行

c) ミニセミナー…のべ168人参加

– OAに関する基礎的な事項についてJSTより説明

– 2022年10月～2023年1月まで月1回ずつ、計4回開催

– 第4回目は、OA誌とするための実践的な手順に焦点をあてた内容にて実施

2022年度の主な取組（2）サービス関係

②J-STAGEセミナーの開催

- 年間テーマ「オープンサイエンスの進展による研究データの共有・利活用の取り組み」
  - 第1回：「研究データ公開の現状と可能性－figshare、バイオインフォマティクス、人文学での取り組み－ 」（134名参加）
  - 第2回（STMとの共催）：「The transformation in scholarly publishing: Research data and its role for Open Research／学術出版の変革：研究データおよびオープンリサーチにおけるその役割」（147名参加）
- オンラインセミナー＋YouTubeでのアーカイブ動画公開

※講演資料、開催報告書、アーカイブ動画へのリンクは「過去のイベント開催情報・配布資料」に掲載しています。
https://www.jstage.jst.go.jp/static/pages/News/TAB4/PastIssues/-char/ja

2022年度の主な取組（2）サービス関係

③J-STAGEニュース：No.50, No.51の発行

※「J-STAGEニュース」よりご覧いただけます。
https://www.jstage.jst.go.jp/static/pages/News/TAB3/Page1/-char/ja

④ 投稿審査システム利用規約改定（2022/4/1施行）

利用機関の要件、自己負担額の改定を行いました。
https://www.jstage.jst.go.jp/static/pages/InformationForSocieties/TAB3/-char/ja

⑤ 外部連携

世界最大の図書館共同体OCLCが提供するWorldCat.org、WorldCat Discoveryと連携を開始
https://www.jstage.jst.go.jp/static/pages/JstageServices/TAB1/-char/ja

※J-STAGEの外部連携の一覧は上記よりご覧いただけます。

J-STAGE 2023年度の主な予定

(1) システム関係

- 筆頭著者・最終著者・連絡著者の複数登録および表示
- 機関および助成事業に関する識別子での記事検索機能
- My J-STAGE本登録エラーの解消
- 全文HTML画面の改修
- バーチャルイシュー機能の追加

(2) サービス関係

- J-STAGEセミナーの開催

  開催日程や内容が決まり次第HP等でお知らせいたします。

- ジャーナルコンサルティング

  参加募集については、決まり次第HP等でお知らせいたします。

- JaLC DOIの資料を対象に類似性チェックサービスをリリース
- J-STAGE登載誌国際発信力強化

2023年度J-STAGEシステム更新予定

- 筆頭著者・最終著者・連絡著者の複数登録および表示（4月リリース予定）
  筆頭著者・最終著者・連絡著者の複数登録を可能にし、書誌画面にその旨を表示できるようにします。
- 機関および助成事業に関する識別子での記事検索機能（4月リリース予定）
  記事の詳細検索機能において、著者所属機関および助成機関/事業の識別子情報（ROR IDなど）を検索条件に指定できるようにします。
- My J-STAGE本登録エラーの解消（4月リリース予定）
  メールセキュリティソフトを入れている場合などにMy J-STAGE本登録用URLが無効になる事象を改善し、本登録が行えるようにします。
- 全文HTML画面の改修（9月リリース予定）
  全文HTML画面の表示仕様や、XMLからHTMLへの変換処理などを改善します。
- バーチャルイシュー機能の追加（2024年3月リリース予定）
  特定のテーマなどにもとづいて、資料内の複数記事を通常の巻号とは別にまとめた形で表示する「バーチャルイシュー」機能を追加します。

リリース時期および詳細が確定次第、J-STAGE上の「リリースノート」ページにてお知らせします。
https://www.jstage.jst.go.jp/static/pages/News/TAB5/Page1/-char/ja

プレプリントサーバJxivの本格運用

Jxivとは、日本発の本格的なプレプリントサーバ。
プレプリント（査読前論文）にDOIを付与し、オープンアクセスで公開。
2023年3月7日現在147件公開中。

【2022年度の主な取組み】

①スクリーニング体制の強化
　外部の専門家に協力を依頼し体制を補強

②利用規約改正
　著者貢献、利益相反の本文中記載を任意とした

③説明会開催、広報活動
　研究者対象・ジャーナル発行機関対象の説明会をそれぞれ開催
　カレントアウェアネスその他記事寄稿、イベントでの紹介
　ASAPbio Preprint Server Directoryに掲載

④機能改修等
　・Google Scholarとの連携開始
　・外部連携を見据えたインタフェース(プレプリントメタデータ連携用API)の開発
　・著者情報にresearchmapリンクを表示
　・書誌画面への利益相反の登録・表示欄追加
　・システム基盤強化（セキュリティ対策、バックアップ対応）

⑤プレプリント公開論文の投稿を受け付ける国内誌リスト化
　（2023年2月現在55誌）

プレプリントサーバJxivの本格運用

【2023年度の活動予定】

①広報活動強化

　研究者への投稿呼びかけを強化。

②システム改善

　・セキュリティ向上

　・検索機能改善　等

③外部連携推進

　プレプリントのデータを収録する学術文献データベースとの連携を進める。

詳細が決まり次第、Jxivの「お知らせ」ページにてご案内する予定です。

https://jxiv.jst.go.jp/index.php/jxiv/announcement

ご静聴ありがとうございました